

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.6.5 No.137 連絡先 FAX 042-555-1911



広島をめざす国民平和大行進は お茶の香りの静岡から愛知へ

(渡邊さんの便りから)「5月31日昼、平和大行進は静岡から愛知に引き継がれました。全国有数の茶の産地の名とおり静岡では、新茶葉がきれいに刈り込まれた茶畑が広がりきれいでした。製茶工場があるそばを通るとお茶の香ばしい良いにおいがします。行進団の休憩地では地元の支援者の方がテーブルを出し、お菓子や飴玉とともに新茶を振る舞ってくれました。(休憩地はいつもそうです)のどの渴きもあって一杯二杯と立てつづけに飲まして貰いました。実に旨いこと。」



写真は、大井川を渡る行進団。渡邊さんの黄色い幟(のぼり)が青空に映えていますね。

市民生活おびやかす 陸上自衛隊レンジャーの 市街地行進は中止を!



6月12日、板橋、練馬で予定されている陸上自衛隊レンジャー30人の2列縦隊行進は、どんなものか。レンジャー訓練とは、約3ヶ月かけて遊撃(ゲリラ)戦をたたかう能力を持った隊員を養成するものです。特に最後の訓練となる行進は、山中などで苛酷な戦闘訓練を受け、疲労、睡眠不足及び飢餓の極限状態に追い込まれた隊員たちが、白昼、市街地を小銃を持って行進します。この訓練で、死亡を含む事故が多発しています。(写真:愛知平和委員会提供)

かつて与謝野晶子は「君死に給うことなかれ」「君」とは弟のことで「親は刃(やいば)をにぎらせて人を殺せと教えしや」とうたいましたが、この訓練を見たら親は何と思うのでしょうか。

在日米軍人等の施設・区域外居住者数 (2011.3.31時点 カッコ内は2009.3.31時点)

	居住者計	基地内	基地外
全国	104,552人 (102,454人)	74,896人 (76,518人)	29,656人 (25,936人)
①沖縄	51,094人 (46,340人)	36,250人 (34,439人)	14,844人 (11,901人)
②神奈川	25,386人 (27,589人)	18,265人 (21,492人)	7,121人 (6,097人)
③青森	8,522人 (8,710人)	5,816人 (5,322人)	2,706人 (3,388人)
④東京	8,003人 (8,162人)	6,502人 (6,744人)	1,501人 (1,418人)
◇福生市	2,290人 (2,500人)	1,966人 (2,151人)	324人 (349人)
◇武蔵村山市	2,151人 (2,341人)	2,057人 (2,253人)	94人 (88人)
◇羽村市	1,728人 (1,493人)	1,510人 (1,389人)	218人 (104人)
◇立川市	999人 (993人)	806人 (792人)	193人 (201人)
◇瑞穂町	277人 (307人)	159人 (159人)	118人 (148人)
◇あきる野市	115人 (129人)	0人 (0人)	115人 (129人)
◇昭島市	113人 (83人)	0人 (0人)	113人 (83人)
◇青梅市(以下略)	40人 (38人)	0人 (0人)	40人 (38人)

「目に見える運動の継続は必ず安保廃棄・基地撤去の世論を起こす力に発展…」

日本平和委員会発行「平和運動」誌の5月号に、4月15日の横田座り込みに参加された内藤功氏のエッセイ「憲法の威力で 改憲・同盟深化・秘密保護法 押し返せ」が掲載されています。一部を紹介します。

■ 2012年日本平和大会が11月に首都東京で開かれる。首都圏の基地およびその闘いのもつ深い意味を思う。

1945年11月18日、マッカーサー連合軍総司令官にたいして、米国合同参謀本部が発した「降伏後における米国の初期の対日政策」には「貴官は、帝都東京、及び貴官が日本管理上必要と認める府県の首都を占領する。貴官は、更に貴官の必要と認める戦略的な場所を占領する。」と指令している。

横田、横須賀、座間、厚木など首都圏の主な基地は、米国の軍事拠点であるとともに日本を政治的に支配するための根拠地なのだ。

横田爆音訴訟の裁判の経験に立って、いま基地前の福生市フレンドシップパークでの座り込みが、毎月第3日曜日、欠かさず実施されている。「横田基地の撤去を求める西多摩の会」が主催する。雨にも風にも負けず、粘り強く不屈に、しかも明るい雰囲気が続いている。

ちょうど、この4月15日は、丸3年を終え4年目に入る節目の記念すべき日だった。いつもより多くの人たちが各地から参加した。地元の女性の方々が「花笠音頭」の踊りを披露してくれた。男性の方の伴奏で「たんぼぼ」をみんなで歌った。「赤旗」政治部の竹下岳氏が、最近

の横田基地めぐる動きについて報告し「外国軍の基地は減少傾向にあり、闘いを強めれば、基地撤去の大きな力になることは戦後の歴史が証明している」と結んだ。こうした目に見える運動の継続は、必ず安保廃棄・基地撤去の世論を起こす力に発展するに違いない。

一方、東京都心部では、港区麻布の米軍ヘリポート前での集会デモが継続的に実施されている。麻布基地は、VIP、高級幹部の発着用ヘリポートだ。横田、横須賀、座間、市ヶ谷と連結している。日米同盟の心臓部分だ。ここでの集会デモも、まさに目に見える闘いだ。場所柄、いろいろな情報機関を通してこの闘いの模様は、迅速にホワイトハウス、ペンタゴンに到達するだろう。ここでの高揚は、世界を動かす場になるかもしれない。

沖縄の闘いと、横田・麻布、横須賀・厚木、座間・相模原、朝霞・練馬、百里、習志野、北富士・東富士など首都圏の闘いは、相互に、助け合い、学び合い、励まし合う関係にある。安保廃棄・基地撤去の情勢は主体的に切り開くものだ。憲法を「武器」に確信を持って、一步一步前進したい。11月の日本平和大会はその総結集の場となろう。(「平和運動」誌 2012年5月号 「連続エッセイ つれづれなるままに 内藤功」より)

5月30日 横田移転記念式典が開かれた

米軍横田基地のホームページで、横田移転記念式典が開かれた様子がアップされています。自動的に翻訳される文章はわかりづらいのですが、それを、要約します。

2012年5月30日、米国空軍中将バートンフィールド在日米軍と第五空軍司令官は、航空自衛隊防空司令本部のグランドオープニングセレモニーで、「日米安全保障同盟を強化するための二国間イニシアチブおよび太平洋地域のアドレスティム再編の一環として、府中空軍基地から移転しました。日米のパートナーシップは、今後数十年以降の地域の安全保障のためのアンカーのまま確保するだろう」と述べました。田中直樹防衛大臣は、「二国間で防衛協力と相互運用性を強化していきます。」と延べADC（航空総隊）の移動が正常に完了したことを祝福しました。

